

平成24年度大学院学位記授与式総長式辞

本日ここに大阪大学の修士/博士学位記授与式に臨まれた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。また、幼少の頃からこれまで、皆さんの勉学を支えてこられましたご家族の方々の長きにわたるご苦労に対しましても、私は心より敬意を表したく存じます。

皆さんは、本日晴れて修士や博士の学位を取得され、一人一人が、それぞれの思いを抱き、これからの進むべき道に夢を膨らませておられることと思います。

私が皆さんに期待することがあります。それは、いかなる分野に進もうとも、常にその分野を究めていただきたい、その分野の信頼されるリーダーになっていただきたい。そのために、この大学で皆さんが培ってきた「物事の本質を見極める」能力を最大限に活かし、誰にも負けない知識と経験、技量を積み、成果をあげるべく日夜励んでいただきたい。ということです。

みなさんが、これまで学んでこられたことは、学問や科学のほんの一端に過ぎません。言い換えれば、まだ入口に差し掛かったところなのです。これからの長い道のりを、切磋琢磨し、新しいことに向かって常に挑戦していただきたいと思います。

昨年は東日本大震災が日本を襲い、さらに追い打ちをかけるように原子力発電所の重大な事故が起きました。決して風化させてはいけないこれらの危機を乗り越え、日本が再び明るい未来を切り拓くことができるか否かは、若い皆さん一人ひとりの双肩にかかっています。我が国が存続・発展していくためには、学術や科学技術の振興が不可欠です。しかし、その学術・科学技術の振興は、市民に信頼されるものでなければなりません。科学技術が孤立する世界では、革新的な技術開発や、心豊かで平和な社会の発展はありえません。

社会が皆さんに求めているところは、大阪大学で養われた知的創造活動としての基礎研究や応用研究の更なる推進とともに、それを社会にわかりやすく還元することです。そのときに、初めて、信頼されるリーダーになるのです。このようなことは本学で研鑽を積み重ねた皆さんだからこそ成しうることです。皆さんは、伝統ある大阪大学で学んだ者として、大いなる誇りを持ち、皆さんの責務を立派に果たしていただきたいと思います。

では、皆さんが学んだ大阪大学とはどのような歴史を有した大学でしょうか？今一度、大阪大学の歴史を振り返ることにより、皆さんが今後進むべき道標にしていいただきたいと思います。

大阪大学の原点は緒方洪庵が、今から174年前の1838年に設立した適塾にあります。ここでは、最先端の学問を求めて集まった福澤諭吉、橋本左内、長与専斎、大村益次郎、佐野常民、大鳥圭介ら日本全国から約1000人の若者が競うように勉学に励みました。我が国の近代的な医療行政を確立した長与専斎は、「この塾は適塾と称へ、四方より来たり学ぶもの常に百人を超え、四時輪講絶ゆることなく当時全国第一の蘭学塾なりき」と回想しています。身分秩序の強かった地方から、大坂の地に出てきた若者は、大坂の町の自由な空気に包まれて、のびのびと青春を謳歌しました。当時の大坂は江戸のように、士官への途があり、大名から仕事に来るわけでもないのに、塾生は皆、ひたすら勉学に勤しみつつ、その苦学を楽しんでいたのです。この適塾の自由な学問的気風と先見性、そして洪庵が最も大切にしていた「人のため、世のため、国のため、道のため」という精神が

この大阪大学の根底にあります。

その適塾に源流を置く医学部と、理学部の2学部からなる「大阪帝国大学」が、長岡半太郎初代総長の下、今から約80年前の1931年、我が国第6番目の帝国大学として誕生しました。「大阪にも帝国大学を」という地元大阪府民の熱意と、当時の大阪府立医科大学長の楠本長三郎や大阪府知事の柴田善三郎ら関係者の努力が実ったことでした。翌々年には大阪工業大学が工学部として加わりました。戦後、新たに法文学部が加わった際に、江戸時代後期、大坂町人が町人のために漢学と国学などを伝習した「懐徳堂」の蔵書類が、懐徳堂文庫として本学に寄贈され、大坂の町に息づいた独創的な学問と思想・文化を受け継ぐに至りました。

この「懐徳堂」は大坂の5商人が、町人のための朱子学の学問所として設立しました。朱子学的道徳を重視する一方で、迷信や鬼神を否定する合理的思考があり、今でいう自然科学に対する関心にも大きなものがありました。とくに懐徳堂の中心人物の一人中井履軒は、自然を知の対象として捉え、その当時大坂にいた学者の麻田剛立が行った人体解剖を記録した『越俎弄筆』や顕微鏡観察の著作『顕微鏡記』まで著しています。懐徳堂は、大阪大学の文系学部の精神的源流と考えられておりますが、自然科学との密接な関連も見逃す事はできません。

戦後、焦土と化した大阪で新制大阪大学としてスタートした際には、法文学部を文学部と法経学部に改組し、現在の総合大学としての骨格が整いました。そして2007年の大阪外国語大学との統合を経て我が国を代表する研究型総合大学として現在に至ります。

このように、「適塾」を原点として、「懐徳堂」の精神を受け継ぎ、大阪府民の熱意に支えられた本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、我が国を代表する総合大学として、世界に向かってたゆみなく発展を遂げて参りました。そして幾多の優れた研究者、教育者、文化人、そして政財界など各界の指導者や卓越した人材を世に輩出してきました。

私は昨年総長に就任して以来、「物事の本質を究める学問と教育が大学の使命であり、この使命を果たすことで大学は社会に貢献していく」と力説して参りました。本年5月には、その根本理念と総長在職期間中のアクションプランを『大阪大学未来戦略(2012-2015)-22世紀に輝く-』として学内外に公表しました(www.osaka-u.ac.jp)。22世紀においても、大阪大学が世界屈指の研究型総合大学として輝き続ける基盤を、大阪大学の構成員全員の英知と力を合わせて構築するために、8箇条の基本方針を定めました。

22世紀の大阪大学には、各国から若者が集まり、そして世界中で大阪大学のDNAを受け継ぐ仲間が活躍しています。その時、大阪大学は物事の本質を見極める研究や教育の世界拠点として輝いています。皆さんは、このような大阪大学の卒業生として本日、世界に羽ばたかれるのです。

今年の夏のロンドンオリンピック・パラリンピックは世界中が沸き返りました。様々な競技で、様々なドラマが繰り広げられました。すべてのドラマに共通していたものは“ひたむきな心”です。一瞬一瞬に無心のところでただひたすら自分の全てを出し切る、その

集中力の極地とも言うべき美しさがありました。選手の姿に、私は、福沢諭吉の言葉を思い出しました。

適塾で学んだ福沢諭吉は「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」など、多くの有名な言葉を残していますが、その中に、このような言葉があります。

「適適豈唯風月のみならんや 渺茫たる塵界自ら天真 世情説くを休めよ、意の如くならずと 無意の人は乃ち如意の人」

とりわけ最後の「無意の人は乃ち如意の人」、この言葉が、善戦する選手と重なったのです。

人々は、選手の見事なプレーに潜む“ひたむきな心”に拍手を送り、感激するのだと私は思います。ただひたすら、日頃のトレーニングの成果を体全体で表現する、その純粹さと情熱、そして技術の高さが一体となり、一瞬に全てをかけます。そして試合に勝つ為には決して勝敗を意識してはならない。ただひたすら、無意の心で、その瞬間にのみ全力投球できるか否かが勝負を決めます。まさに「無意の人は乃ち如意の人」です。この姿に人々は感激するのだと思います。

世界で初めて5大陸最高峰登頂を達成し、北米マッキンリー単独登山中に遭難死した冒険家の植村直己は、あるとき子供達に次のように語りかけました。

「君たち、夢を忘れないように。夢を抱き続ければ、いつか必ず夢を叶えることができる。」そして、あるときには彼はこうつぶやきます。「あきらめないこと。どんな事態に直面してもあきらめないこと。結局、私のしたことは、それだけのことだったのかも知れない。」

誰しも子供の時は、夢を持ちます。理想を心に抱きます。しかし、夢や理想は現実とあまりにもかけ離れており、それを容易には手に入れることができません。永遠に不可能とすら思えます。だからこそ夢であり、理想であるのです。人々は成長するにつけて、多くの厳しい現実を経験し、夢と現実の乖離の大きさを実感するに従い、一つ一つ夢を失っていきます。その過程で子供のもつ純粹さ、目の輝きも失っていきます。そして気がつけば当たり前の人になってしまっています。

これから皆さんは、企業や行政機関など第一線で活躍する社会人として、あるいは各種教育研究機関で次世代の人材を育成する教育者として、あるいは未来を切り開く研究者として、そして一人の人間として、長い人生を送られるわけですが、あなたが幼いころ、希望とともに抱いた“夢”をいつまでも失わないでいただきたい。一瞬一瞬を大事にして、大いなる夢を持って輝ける未来に挑戦していただきたいと思います。「無意の人は乃ち如意の人」という言葉を噛みしめて欲しいと思います。

皆さんにあり、私に無いもの、それは未来という無限の可能性です。

大阪大学は、これからもここに在ります。皆さんが世界に羽ばたいても、いつでも羽を休めることができる場所として、ここに在り続けます。あなた方の活躍が私たちの存在証

明にもなるのです。

そして、あなた方の母校となるこの大阪大学を、どうか末永く見守ってください。わずかな力、わずかな眼差しでも構いません。皆さんの後続く後輩のために、大阪大学未来基金事業にもご協力ください。卒業生の皆さんの支援が、これからの世界を担う若者に生きる活力を与えます。創立以来、数えきれない先輩方の愛情が、あなた方を育ててくださったようにです。

どうぞ、母校で過ごした日々を誇りに、未来の大阪大学に対する温かい愛とともに、一步一步を踏みしめて前に進んでください。

最後になりましたが、皆さんお一人お一人がこれからの長い生涯、幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、私の式辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

平成24年9月25日
大阪大学総長 平野俊夫